

## 第3学年算数科授業デザイン

令和5年5月29日(月)  
東昌小学校3年生 12名  
指導者

1. 単元名 わり算のあまりの意味を考えよう

2. 本時のねらい

・あまりのある除法の問題を解き、除法についての理解を深め、あまりを正しく処理して答えることができる。

3. 学習の流れ

|   | 主な学習活動  | 指導上の留意点   | 評価   |
|---|---|---|--|
| 1 | <p>【導入】 余りの処理に着目させる</p> <p>3年生の13人みんなで社会科見学に行きます。1台のタクシーに5人ずつ乗ります。何台必要ですか。</p> <p style="border: 1px solid green; padding: 5px; display: inline-block;">あまりに気を付けて答えよう。</p>  | <p>○あまりをそのままにはいけない場面があることを確認する。</p> <p>○自分でめあてをたてさせる。</p>   |  |
| 2 | <p>【学び合う】</p> <p>共有の課題①</p> <p>40このいちごを6こずつふくろに入れてくばります。ぜんぶのいちごをふくろに入れるにはふくろは何まいいりますか。</p> <p>共有の課題②</p> <p>(1) 3年生13人の水泳学習はグループです。3人のグループを作ると何グループできて何人のこってしまいますか。</p> <p>(2) のこりの人がないようにすると、それぞれ何グループできますか。</p> | <p>○実際に確かめられるように具体物を用意する。</p> <p>○子どもの分からなさからつないで、どうして+1して答えなくてはならないのか考えさせる。</p> <p>○余りを作らない問題解くことで除法の理解を深めさせる。</p> | <p>【知】 除法の具体的な場面と結び付けながら式に表し、余りを正しく処理することができる。</p> <p>【思】 余りの処理の仕方を説明することができる。</p> |
| 4 | 自分のペースでたしかめ問題に取り組む。   |   |  |
| 5 | <p>【まとめ】</p> <p>学習のふり返りを書く。</p>   | ○何が分かったのかを具体的に言葉でまとめさせる。  | 【態】 自分なりの解決方法をふり返りに書くことができる。   |

4. 学びを活性化させるための手立て

- ① あまりをそのままにはいけない場面があることを導入で実感させる。
- ② 具体物を用意する。あまりの分を入れるのもう一袋必要だということを実感させる。
- ③ 答えるときにどうして+1をしないといけないのか、じっくり考えさせたり説明させたりする。  
(グループ⇄全体を繰り返しながら全員が考えられるようにする。)